

・防災教育の取り組み

平成29年6月の「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画において実施する防災教育促進の取組について

千曲川・犀川大規模氾濫に関する減災対策協議会 支援校

・坂城町 南条小学校

防災教育の促進(大規模氾濫減災協議会の活用)

- 平成29年度に国管理河川の全ての129協議会において、防災教育に関する支援を実施する学校を教育関係者等と連携して決定し、指導計画の作成支援に着手
- 平成30年度末までに、国の支援により作成した指導計画を、都道府県管理河川を含む協議会に関連する市町村の全ての学校に共有

支援内容

国土交通省は、各学校によって作成される指導計画(わかりやすい授業の流れやポイントを整理した計画)の作成を支援

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説	教師の発問(子どもの反応)
導入 (10分)	1 前時のふりかえり 2 川内川が壊れて困れそうな状況で、家族と連絡がとれない状況を想像し、自分だったらどうするかを考える。 ○ 近所の人に相談する ○ 避難しようとする ○ 家で待てる ○ 一人で逃げる 3 平成18年洪水の時、さつま町では死者1名、救助された人27名であったのに対し、東日本大震災の時、釜石小学校184名は全員が無事で、救出者も9名だったのはなぜなのかを考える。 初めに「災害を防ぐために地域でどんな取り組みが工夫されているのだろうか。」	【教材①】 【教材②】 【教材③】 【教材④】 【教材⑤】 【教材⑥】 【教材⑦】 【教材⑧】 【教材⑨】 【教材⑩】 【教材⑪】 【教材⑫】 【教材⑬】 【教材⑭】 【教材⑮】 【教材⑯】 【教材⑰】 【教材⑱】 【教材⑲】 【教材⑳】 【教材㉑】 【教材㉒】 【教材㉓】 【教材㉔】 【教材㉕】 【教材㉖】 【教材㉗】 【教材㉘】 【教材㉙】 【教材㉚】 【教材㉛】 【教材㉜】 【教材㉝】 【教材㉞】 【教材㉟】 【教材㊱】 【教材㊲】 【教材㊳】 【教材㊴】 【教材㊵】 【教材㊶】 【教材㊷】 【教材㊸】 【教材㊹】 【教材㊺】 【教材㊻】 【教材㊼】 【教材㊽】 【教材㊾】 【教材㊿】	T:前回の授業では、国や都道府県、市町村は「公助」という自然災害による被害を助いかり減らしたりするための取り組みを行っているということを学習しましたね。では想像してみてください。町内のスーパーから「避難しましょう。」という放送が流れています。外は大雨です。君は家に一人です。あともう少ししたらお家の人が帰ってきます。不安になって近所の人を見てみるよ避難していません。どうしますか。 (C:知っている人に電話をする。家で待っている。一人で避難する...) 平成18年洪水写真【教材②】を見せる。 T:さつま町の平成18年の水害のとき、亡くなられた方は1名でしたが、消防や警察に救助された人は27名もいました。東日本大震災の建設の被害の写真【教材③】を見せる。 T:東日本大震災のとき、岩手県の釜石市というところでは、大人の生存率60%だったのに対し、小中学生の生存率は98%でした。しかも、釜石市の釜石小学校には生徒が184名いるのですが、みんな外で遊んでいたのにもかかわらず全員が無事でした。なぜでしょうか。	
展開 (30分)	4 ワークシートを見て、さつま町で多くの人がを救助しなければならなかった理由を考えて。 ○ 危険感がなかった。 ○ 1人で逃げずに待っていた。 ○ 呼びかけに応じなかった。 ○ 見回りが足りなかった。 5 VTRを見て、なぜ釜石市の子どもたちは逃げることができたのかを考える。 ○ 一人で避難した。 ○ 避難訓練で練習した。 ○ 避難訓練の実力を発揮した。 ●自分たちのできることを事前に考え、避難訓練をすることにより、自分の命を守ることができていることに気づかせる。	ワークシート【教材④】を配る。 まず最初に、さつま町ではなぜ27名も救助される事になったのでしょうか。平成18年洪水時の避難者・救助者の体験談から分析して、ノートにまとめよう。 黒板にさつま町【教材⑤】のイラストを貼る。 T:では発表してください。 T:なぜ呼んでもらえなかったのでしょうか。 (C:これまで大丈夫だったから。危険感がなかったから。) T:では反対に、釜石小学校の子どもたちが全員無事だったのはなぜでしょうか。VTRを見て気づいたことをノートにメモしてください。 VTR「釜石小学校の子どもたちに学ぶ」(約3分)【教材⑥】を視聴する。 T:では発表してください。 (C:一人で避難していた。お父さんを連れて避難した。避難訓練をしていた。) 答えて釜石小学校の生徒のイラスト【教材⑦】を黒板に貼っています。 T:普段から訓練をしていたから実力が発揮できたことができたんですね。		



指導計画・板書計画の例
(川内川河川事務所HPより抜粋)

【川内川水防災河川学習プログラム】
<http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/program/index.html>

今後のスケジュール

国管理河川 国・都道府県管理河川共通

平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
平成28年度より、28校において指導計画の作成支援を先行して実施	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度中に、国管理河川の全ての129協議会において、防災教育に関する支援を実施する学校を教育関係者等と連携して決定し、平成30年度末までに、防災教育に関する指導計画を作成できるよう支援 国の支援により作成された指導計画を都道府県管理河川を含む協議会に関連する市町村の全ての学校に共有 			引き続き、防災教育の実施を支援	
(学習指導要領改訂平成29年3月31日)	(平成29年3月31日に改訂された新学習指導要領の周知・徹底・移行期間)			(平成29年3月31日に改訂された新学習指導要領の全面実施)	